

教育に関する事務の点検・評価報告書

(平成31年度対象)

令和2年11月

印西市教育委員会

目 次

1	点検評価について	1 頁
	(1) 趣旨	2 頁
	(2) 点検評価の対象	2 頁
	(3) 点検評価の方法	2 頁
	(4) 点検評価結果の構成	3 頁
2	印西市の教育施策	4 頁
	(1) 教育施策の基本理念	5 頁
	(2) 主な施策	6 頁
	(3) 教育施策の体系	9 頁
	(4) リーディング施策	10 頁
3	点検評価結果	13 頁
	(1) 点検評価結果目次	14 頁
4	評価のまとめ	33 頁
	(1) 評価内訳	34 頁
	(2) 施策別評価	36 頁
	(3) 学識経験者の知見の活用	36 頁

1 点検評価について

(1) 趣旨

市教育委員会では、平成19年6月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、毎年、教育行政事務の管理執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表しています。昨年度は、平成30年度の「印西市の教育施策」について「点検・評価」を実施し、各分野の学識経験者の皆様よりご意見をいただき、報告書を取りまとめ、公表しました。この「内部点検評価」の作業及びいただいたご意見を参考にすることで、平成31年度中に施策の進捗状況を再確認し、効果的な施策の展開に寄与することができたと考えております。

今年度も平成31年度の「印西市の教育施策」について「点検・評価」を実施し、報告書に取りまとめました。これを公表し、市民の皆様からご意見をいただき、よりよい教育の実現に向けて、取り組みを進めてまいりたいと考えております。

(2) 点検評価の対象

点検評価の対象は、平成31年度の「印西市の教育施策」（以下「教育施策」という。）における事業の実施内容とします。

(3) 点検評価の方法

点検評価の方法は、教育施策中の「主な取り組み」毎に、平成31年度に実施した実施内容及び実績を明らかにするとともに、それに基づいた施策の内部評価を客観的に行い、課題を分析し、今後の事業に活かすものとします。

なお、法律に明記されている「学識経験を有する者の知見の活用」については、「印西市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価実施要綱」を定め、学校教育、生涯学習、それぞれの分野の学識経験を有する方を「印西市教育委員会点検評価委員」（以下「点検評価委員」という。）として委嘱しご意見をいただくこととします。

(点検評価の流れ)

○事業点検…「主な取り組み」毎の事業内容点検（点検者：担当課長）



○施策評価…「主な取り組み」毎の評価

（評価者：教育長，部長，点検評価委員）



○総合評価…教育委員会会議における最終評価（評価者：教育委員）

(4) 点検評価結果の構成

教育施策中の「主な施策」毎の「主な取り組み」における「事業内容」を、平成31年度に実施すべき事業目標と位置付け、この実施状況について点検を行い、「主な取り組み」毎に内部評価しています。

表の項目について

○事業……「主な取り組み」毎に掲げている事業です。

○事業内容（平成31年度目標）……事業の具体的内容です。教育施策は、当該年度の事業計画書であり、教育施策中の「主な取り組み」における「事業内容」は、実施すべき具体的事業内容であることから、平成31年度目標と位置付けています。

○平成31年度実績……平成31年度目標に対し、実際に実施した事業の内容、回数などを具体的に記載しています。

○施策評価……「主な取り組み」毎に、事業の進捗を点検し、印西市教育委員会が内部評価しました。評価指標は「S、A、B、C」の四段階評価とし、以下の内容を基準としています。

S 事業の目標が達成され、計画以上の施策の進捗が認められる。

A 事業の目標が概ね達成され、施策の進捗が認められる。

B 目標の一部が達成できなかった。

C 未達成事業が多く、施策の進捗がほとんど認められない。

○評価理由……「S、A、B、C」の評価を行った理由を示しています。

○今後の課題……重点施策の実現に向けて、今後の方向性を示しています。

《参 考》地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

〔昭和31年6月30日法律第162号〕

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 印西市の教育施策

印西市基本構想

将来都市像

ひと まち 自然 笑顔が輝く いんざい

将来の都市像実現のため6つの柱

- 1 恵まれた自然の中でやすらぎを持って生活できるまちをつくる《生活環境》
- 2 やさしさを持っていきいきと暮らせるまちをつくる《健康福祉》
- 3 地域の持つ可能性を活かした魅力あるまちをつくる《産業振興》
- 4 健やかな心と体を育み未来を拓くまちをつくる《教育・文化》
- 5 快適で暮らしやすい都市機能の充実した美しいまちをつくる《都市基盤》
- 6 市民と行政がともに歩み健全で自立したまちをつくる《住民自治・協働・行財政》

印西市教育大綱

印西市教育振興基本計画

教育施策

教育の基本理念 【だれもが輝き ともにばたく いんざいの学び】

主な施策

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

- 1 学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進
- 2 安全で安心できる教育環境づくり

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する

〔生涯学習・生涯スポーツ〕

- 1 年齢にとらわれずいきいきと暮らすための生涯学習活動
- 2 地域で子どもたちを守り育てる環境づくり
- 3 市民が参加しやすいスポーツ環境の整備と推進体制の充実
(健康子ども部と連携・協力)

III. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化芸術〕

- 1 創造性を育む文化・芸術活動の推進・継承
- 2 文化財の保護・活用
- 3 市史編さん事業の推進

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

学校教育には、子どもたちに「社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難な時代を生きるために必要となる生きる力」を育むことが求められている。本市では、生きる力を育むためには「学ぶ力・豊かな心・健やかな体」の調和のとれた教育を推進することが重要であると捉えている。

「学ぶ力」を育むために、学力の向上を中心にすえ、幼児教育、読書活動、英語教育、特別支援教育、キャリア教育を特色ある取組として教育活動を推進するとともに、教職員の研修を充実させ、教育の質の向上を図る。

「豊かな心」を育むために、実践的な道德教育、人権教育、体験活動、芸術文化体験活動を推進するとともに、特別な配慮を必要とする子どもたちのために、適応指導、教育相談の充実を図る。

「健やかな体」を育むために、学校体育を中心にすえ、学校環境衛生、運動部活動の充実を推進するとともに、学校給食を通じた食に関する指導の充実を図る。

また、子どもたちが安全で安心できる学校生活を送り、健やかな成長を支えられるような教育環境づくりとして、学校施設や就学援助の整備、学校の適正規模・適正配置や安全教育の充実、地域と連携した開かれた学校づくりや情報化社会に対応した教育の推進を図る。

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する〔生涯学習・生涯スポーツ〕

生きがいを持ち、心豊かで充実した生活を送れるよう、生涯にわたって学習できることが重要となっている。さらに、国際化・情報化等の進展に伴う、価値観の多様化と社会の急速な変化に対応するため、情報を見極め、個人の適性に応じた知識や技術を習得し、活用していく必要性が高まっている。

こうした市民の多様な学習ニーズと現代的課題に適切に対応するため、多様な生涯学習情報と公民館・図書館等の学習活動の場を提供することにより、学習機会の拡充を図り、「いつでも・どこでも・だれでも」生涯にわたってさまざまな分野で自ら学ぶことのできる学習環境をつくり、市民の生涯学習活動を推進する。

また、公民館や図書館等の生涯学習・社会教育施設の維持・管理や指導者の確保、高等教育機関等との連携・協力を図り、生涯学習推進体制を充実する。

さらに、親と子の絆を強めて、子どもの生きる力の基礎となる家庭教育を充実させるとともに、子ども達が安全・安心で健やかに成長できるように、地域で行われる青少年健全育成活動を推進し、地域で活動する市民団体を支援する。

スポーツ・レクリエーション活動は、市民の「こころ」と「からだ」の健全な発展をうながし、明るく豊かで活力に満ちた生きがいある社会の形成に寄与するものである。しかし、社会背景の変化に伴い、運動不足や体力の低下が問題となってきている。

このような状況の中で、当市においても高齢化の進展、余暇時間の増大、そしてライフスタイルの個性化・多様化などにより、スポーツに対する関心が高まり、気軽にスポーツ・レクリエーション活動へ参加できる機会の拡充が強く求められている。

このことから、市民が心身ともにたくましく健康で明るい生活が送れるよう、生涯にわたってそれぞれの体力や年齢に応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しめる機会の拡充に協力する。

※ 平成31年度から組織改編によりスポーツ振興課が市長部局新設の「健康子ども部」へ移管されたことに伴い、生涯スポーツ分野の各事業については、連携・協力することとする。

Ⅲ. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る

〔文化芸術〕

私たちを取り巻く社会環境の大きな変化に伴い、多様なライフスタイルが追求され、暮らしに生きがいやゆとり、潤いをもたらす文化的価値が重視されてきている。

こうした中で、市民一人一人がゆとりある充実した生活をおくるためには、文化に親しみ、自ら文化創造の担い手となることを基本として、魅力に富んだ地域文化の形成が求められている。

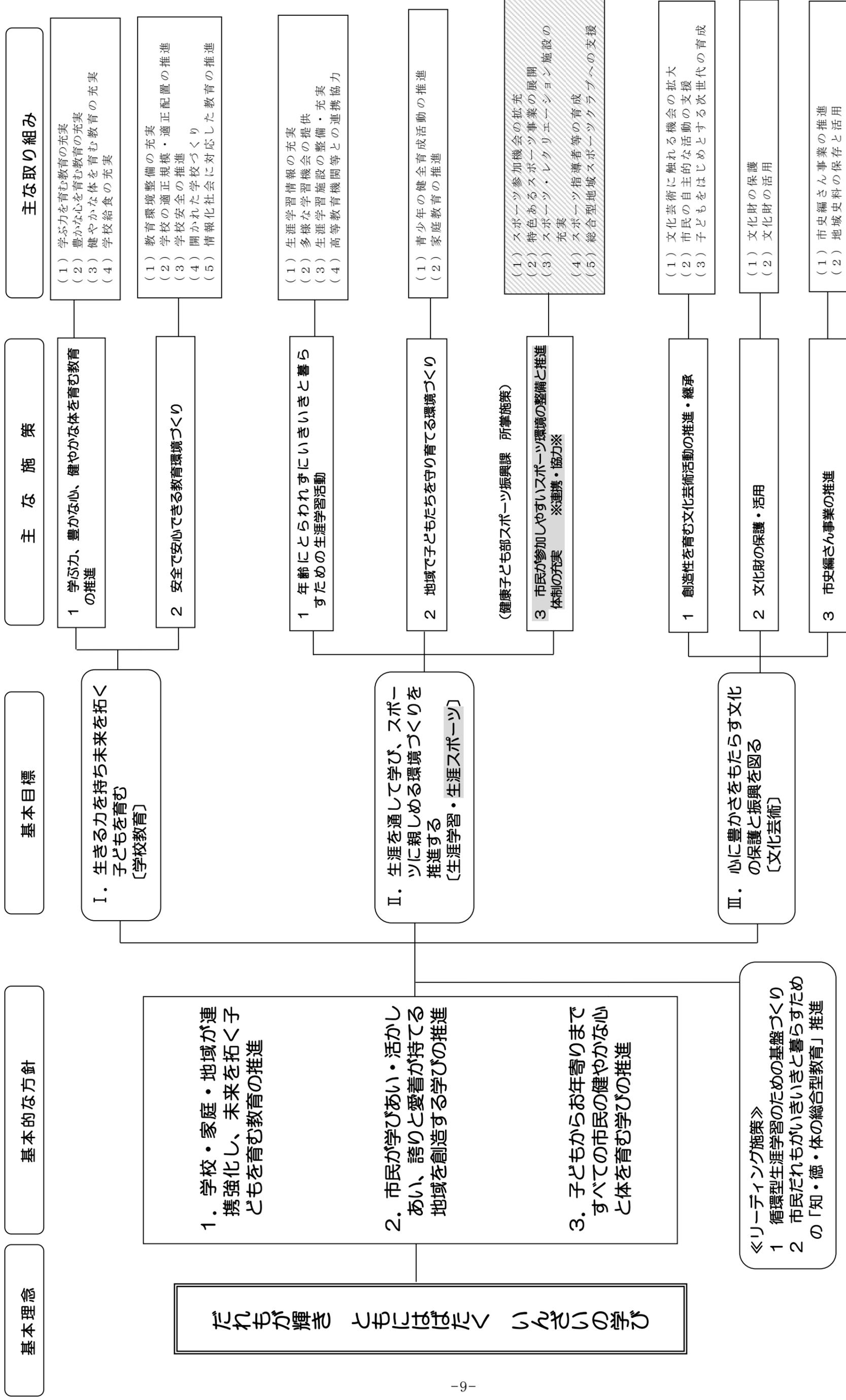
また、文化は古くからその地域の自然・歴史・伝統と共存しながら、そこに住む人々の長い生活の営みによって育まれ、独自のものを形成してきた。ところが、昨今の急激な都市化の進展に伴い、社会構造や生活環境が大きく変貌する中で、伝承されてきた生活技術や習慣の多くが忘れ去られようとしている。

このことから、市民の自主的で創造的な文化芸術活動の推進や市民の文化芸術に対する関心を高めるため学習機会や学習情報の提供などを積極的に行い、ゆとりと

潤いのある文化芸術活動の盛んなまちづくりを展開する。

さらに、市民の心のよりどころとなる文化遺産を保護し、次の世代に継承するため、積極的に調査研究するとともに、その保存・活用に努め、伝統文化の振興を図る。

印西市の教育施策の体系



だれかが輝き ともにがんばり いんぎの学び

基本理念

基本的な方針

基本目標

主な施策

主な取り組み

- (1) 学び力を育む教育の充実
- (2) 豊かな心を育む教育の充実
- (3) 健やかな体を育む教育の充実
- (4) 学校給食の充実

- (1) 教育環境整備の充実
- (2) 学校の適正規模・適正配置の推進
- (3) 学校安全の推進
- (4) 開かれた学校づくり
- (5) 情報化社会に対応した教育の推進

- (1) 生涯学習情報の充実
- (2) 多様な学習機会の提供
- (3) 生涯学習施設の整備・充実
- (4) 高等教育機関等との連携協力

- (1) 青少年の健全育成活動の推進
- (2) 家庭教育の推進

- (1) スポーツ参加機会の拡充
- (2) 特色あるスポーツ事業の展開
- (3) スポーツ・レクリエーション施設の充実
- (4) スポーツ指導者等の育成
- (5) 総合型地域スポーツクラブへの支援

- (1) 文化芸術に触れる機会の拡大
- (2) 市民の自主的な活動の支援
- (3) 子どもをはじめとする次世代の育成

- (1) 文化財の保護
- (2) 文化財の活用

- (1) 市史編さん事業の推進
- (2) 地域史料の保存と活用

- 《リレーディング施策》
- 1 循環型生涯学習のための基盤づくり
 - 2 市民だれもがいきいきと暮らすための「知・徳・体の総合型教育」推進

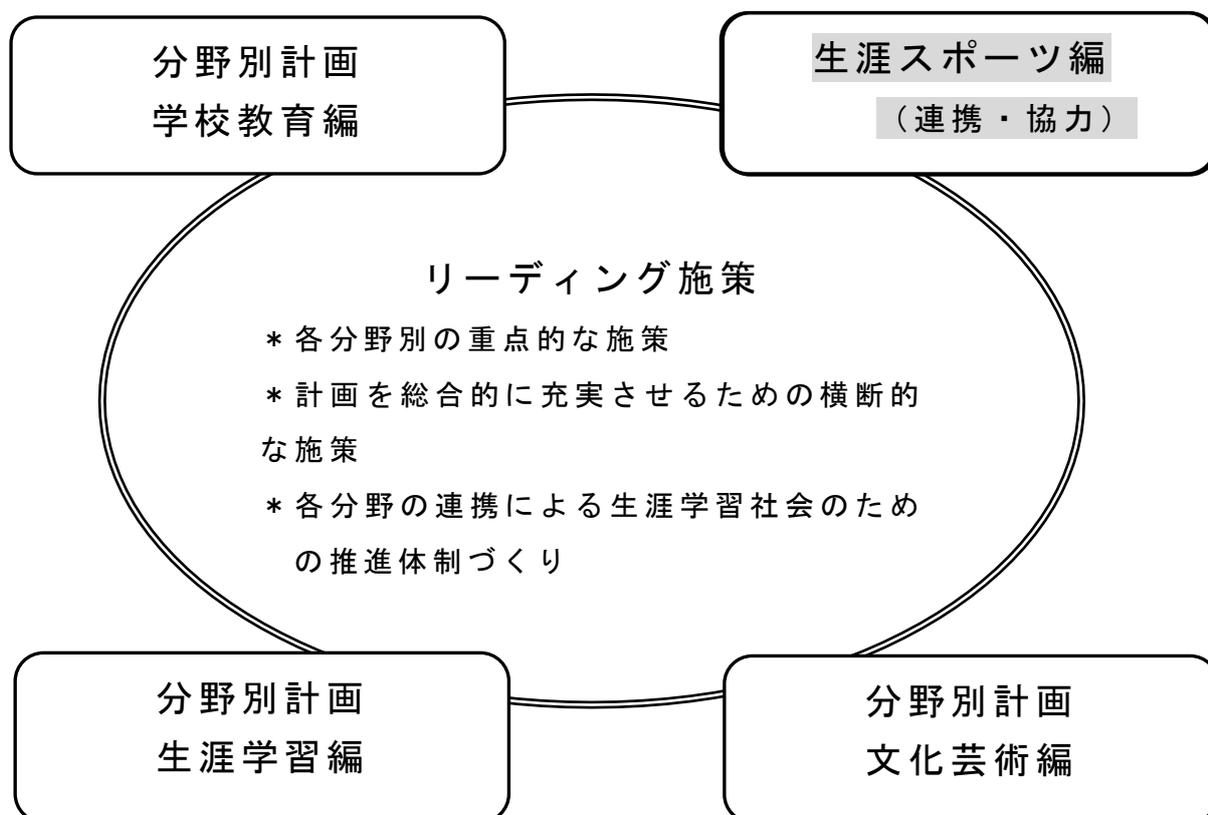
リーディング施策の位置づけ

リーディング施策は、基本理念や基本方針を実現するために、印西市教育振興基本計画（平成30年度～平成33年度）全体を先導していく施策や横断的に関連する施策を連携させることで相乗効果を発揮することを目的として位置付けます。

そのため、「たくましく生きる子どもたちを育成する学校教育」や「すべての市民の学習環境を充実させ、それらの学習や活動成果を活かして互いが地域社会に参画する本市独自の生涯学習社会の構築」を目指すことが、重点課題となります。

そこで、教育振興基本計画のリーディング施策は、学校教育、生涯学習、生涯スポーツ、文化芸術分野の充実を横断的に推進するとともに、学習成果や人材を活かす体制等を設定します。

〔リーディング施策の位置づけのイメージ〕



リーディング施策(平成30年度～33年度)

リーディング施策 1 循環型生涯学習のための基盤づくり	
主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ① さわやかコミュニティ地域推進会議などを活用し、学校との連携を推進します。 ② アカデミーや出前講座などにより、人材の発掘に努めます。 ③ 地域の生涯学習、生涯スポーツ、文化芸術の活動や人材の情報共有や交流を進めます。 ④ 学校教育において必要な活動を学校と地域・家庭が連携・協力する仕組みを構築し、学校との連携を強化し、人づくり・地域づくりを推進します。
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実 ○ 市民アカデミー ○ 生涯学習まちづくり出前講座 ○ 放課後子ども教室 ○ 公民館・地域交流館主催事業
リーディング施策 2 市民だれもがいきいき暮らすための「知・徳・体の総合型教育」推進	
主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を通じて、子どもから高齢者まですべての市民のスポーツや健康に対する関心を高めます。 ② 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会キャンプ地誘致を通じて、海外チームと市民や学生とのスポーツ、文化などの交流を推進します。 ③ 子どもの頃から文化芸術に親しむ機会を増やすことや地域に根差した文化芸術活動を充実させ、学校教育や生涯学習と連携しながら、「知」「徳」のライフステージに合わせた学びを充実させます ④ 大学等と連携して、「知」「徳」「体」の連携方策を検討し、「総合型プログラム」を作成する体制を検討します。 ⑤ 子どもの「総合型プログラム」を、将来的には関係各課と連携をとりながら、乳幼児の時期から高齢者までのプログラムとして作成し、市民の健やかな体と心を育む学びを推進することを検討します。
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合型プログラム作成事業 ○ 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に関連するスポーツ・文化・芸術イベントの推進 ○ 家庭教育学級の充実 ○ 文化芸術事業の充実 ○ 地域文化活動の支援

《リーディング施策アクションプラン》

[平成31年度 主な取り組み]

- * 学校教育において必要な活動を学校と地域・家庭が連携・協力する仕組みを構築し、活動を開始します。

- * 市民アカデミーや出前講座を通じて、地域づくりの担い手や生涯学習ボランティアの育成に努め、生涯学習ガイドを充実させます。

- * 子どもの頃から文化芸術に親しむ機会を増やすことや地域に根ざした文化芸術活動を充実させ、学校教育や生涯学習と連携しながら、「知」「徳」のライフステージに合わせた学びを充実させます。

- * 大学などと連携して、「知」「徳」「体」の連携方策を検討し、「総合型プログラム」を作成する体制を検討します。

3 点検評価結果

点検評価結果 目次

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

1 学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 学ぶ力を育む教育の充実 | 15頁 |
| (2) 豊かな心を育む教育の充実 | 18頁 |
| (3) 健やかな体を育む教育の充実 | 19頁 |
| (4) 学校給食の充実 | 20頁 |

2 安全で安心できる教育環境づくり

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 教育環境整備の充実 | 21頁 |
| (2) 学校の適正規模・適正配置の推進 | 21頁 |
| (3) 学校安全の推進 | 21頁 |
| (4) 開かれた学校づくり | 22頁 |
| (5) 情報化社会に対応した教育の推進 | 23頁 |

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する

〔生涯学習・生涯スポーツ〕

1 年齢にとらわれずにいきいきと暮らすための生涯学習活動

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 生涯学習情報の充実 | 24頁 |
| (2) 多様な学習機会の提供 | 24頁 |
| (3) 生涯学習環境の整備・充実 | 25頁 |
| (4) 高等教育機関等との連携協力 | 25頁 |

2 地域で子どもたちを守り育てる環境づくり

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 青少年の健全育成活動の推進 | 26頁 |
| (2) 家庭教育の推進 | 26頁 |

III. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化芸術〕

1 創造性を育む文化芸術活動の推進・継承

- | | |
|----------------------|-----|
| (1) 文化芸術に触れる機会の拡大 | 27頁 |
| (2) 市民の自主的な活動の支援 | 27頁 |
| (3) 子どもをはじめとする次世代の育成 | 27頁 |

2 文化財の保護・活用

- | | |
|------------|-----|
| (1) 文化財の保護 | 28頁 |
| (2) 文化財の活用 | 28頁 |

3 市史編さん事業の推進

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 市史編さん事業の推進 | 29頁 |
| (2) 地域史料の保存と活用 | 29頁 |

◇ リーディング施策

- | | |
|----------------------------------|-----|
| ○生涯学習、生涯スポーツ、文化芸術活動の各分野の交流を進めます。 | 30頁 |
|----------------------------------|-----|

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

1 学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進

(1) 学ぶ力を育む教育の充実

事業	事業内容(平成31年度目標)	平成31年度実績
①個性や能力を伸ばす教育の推進 (7) 個性や能力を伸ばす教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学級経営相談支援の実施 ○漢字級別認定テスト「印西漢字マスター」の実施 ○計算力認定テスト「Inzai Legend of Math」の実施 ○社会科ワークテストの活用 ○生徒指導の機能を重視した「わかる授業」展開の推進 ○基礎学力向上のための取組の推進 ○個に応じた指導方法の工夫・改善及び指導体制の充実 ○ICTを活用した授業づくりの推進と支援 ○学力向上プロジェクトの実施 ○学校支援ボランティア・学生ボランティアの活用(順天堂大学、秀明大学、日本医科大学看護専門学校との連携) ○教職インターンシップ「あすなる先生」の派遣(秀明大学との連携) ○デジタル教材の効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○8回の要請に応じて学校を訪問し、基本的な授業技術の向上や適切な学級事務の進め方等について助言・支援した。 ○年3回実施し、各回とも約3,700名ほどの児童生徒が受検した。 ○年3回実施し、各回とも約3,500名ほどの児童が受検した。 ○社会科副読本「わたしたちの印西市(小学3・4年生版)」に準拠したワークテストの活用を推奨した。 ○121回の要請に応じて学校を訪問し、授業研究会等で助言・支援した。 ○各校でドリルタイム設定等の工夫をし、計算・漢字等の基礎学力の向上を図った。 ○各種研修会において教職員の資質向上を図るとともに、学習指導員等の配置やボランティアの活用を行った。 ○既存の電子黒板やPC、書画カメラやタブレットPC等を利用した授業を実施した。 ○全教職員が学習指導案を作成した授業研究を行い、指導力の向上を図った。また、121回の要請に応じて指導主事を派遣し、指導・助言を行った。 ○各学校合計642名のボランティアの協力を得て、学習支援の充実と環境整備等の推進を図った。 ○21名の学生を6小学校及び6中学校に派遣し、学生の教職インターンシップを支援した。 ○授業では話し合い活動、調べ学習及び映像資料作成等にタブレット端末を活用し、家庭学習では学習支援ソフトを活用できるよう支援した。
②確かな学力を育むための研修の充実 (7) 教職員研修(主任・層別等)の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○教頭研修会の開催 ○教務主任研修会の開催 ○学年主任等研修会の開催 ○生徒指導担当者研修会の開催 ○情報教育研修会の開催 ○国際理解教育担当者研修会の開催 ○学校図書館担当者研修会の開催 ○体育主任研修会の開催 ○安全主任研修会の開催 ○養護教諭研修会の開催 ○特別支援教育コーディネーター研修会の開催 ○教育相談研修会の開催 ○道徳教育授業実践研修会の開催 ○若年層研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校の教頭を対象に、2回の研修会を実施した。 ○小中学校の教務主任を対象に、7回の研修会を実施した。 ○対象を学年主任と限定せず、小中学校の希望する中堅教職員を対象に、1回の研修会を実施した。 ○小中学校の生徒指導担当者を対象に、3回の研修会を実施した。 ○小中学校の情報教育担当者を対象に、1回の研修会を実施した。 ○小中学校の国際理解教育担当者を対象に、2回の研修会を実施した。 ○小中学校の学校図書館担当者を対象に、1回の研修会を実施した。また、図書システム研修会を2回実施した。 ○小学校体育主任を対象に1回、中学校保健体育科主任を対象に1回の研修会を実施した。 ○小中学校の安全主任を対象に、1回の研修会を実施した。 ○小中学校の養護教諭を対象に、3回の研修会を実施した。 ○小中学校の特別支援教育コーディネーターを対象に、1回の研修会を実施した。 ○小中学校の希望する教職員を対象に、4回の研修会を実施した。 ○小中学校から推薦された教職員を対象に、3回の研修会を実施した。 ○小中学校の若年層教職員を対象に、5回の研修会を実施した。
(4) 指導法等の研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○教科教材研究等に関する研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校の希望する教職員を対象に、13講座の研修会を実施した。

	○学習指導法等に関する研修会の開催	○小中学校の希望する教職員を対象に、教育センターが主催し5回の各種研修会を実施した。
	○実技研修会の開催	○小中学校の希望する教職員を対象に、2回のICT活用研修会及び1回の図画工作科研修会を実施した。
	○ICT実技研修会及びICT活用研修会の開催	○小中学校の教職員を対象に、5回の研修会（情報教育、ICT活用等）を層別実施した。
	○特別支援教育研修会の開催	○小中学校の特別支援教育担当者及び希望する教職員を対象に、2回の研修会を実施した。また、学習指導員及び介助員等を対象に、2回の研修会を実施した。
	○人権教育研修会の開催	○要請を受けた小中学校において、教職員を対象とした研修会を6回実施した。
	○授業相談支援の実施	○小中学校の要請に応じて、指導主事等が授業づくり、学級経営、校内研究及び研究発表等に関する指導・助言を121回実施した。
	○各種出前授業の開催	○小中学校の要請に応じて、児童生徒・保護者を対象に、指導主事等によるSNSネットリテラシー出前授業を11回実施した。
(f) 校内研修の支援	○授業研修での指導・助言	○各小中学校に指導主事等を121回派遣し、指導・助言を行った。
	○評価についての研修の支援	○小中学校の要請に応じて、指導主事等が評価基準や評価方法についての指導・助言を行った。
③教育課題への指導・支援の充実		
(7) 教育課題の調査・研究・開発	○基礎学力調査と活用	○指導主事を派遣し、思考力・判断力・表現力の育成を中心に指導・助言を行った。
	○教育に関する調査・研究・開発	○全国学力・学習状況調査及び千葉県標準学力検査の結果について調査し、考察を加えた冊子を作成し、各校に指導法改善の周知を図った。
	○研究校等、特色ある教育活動への支援	○国語科、外国語科、体育科、学力向上、オリンピック・パラリンピック教育、福祉教育、情報教育、食育など、特色ある教育活動を行う12小学校及び3中学校への支援を行った。
	○教材の研究開発	○教育センターにおいて、社会科副読本や漢字検定、SNS等対応ネットリテラシー教材等を改訂し、算数コンテンツを一新した。
	○教科指導法の指導・支援	○小中学校の要請に応じて、指導主事等が教科指導に関する指導・助言を行った。
(4) 教育研究団体支援事業	○教職員による自主講座の開催	○当年度は要請がなかった。
	○市教育研究会の運営支援	○要請に応じて、指導主事等を派遣し、運営支援を行った。
	○市教育研究会への指導・助言	○要請に応じて、指導主事等を授業研修会に11回派遣し、指導・助言を行った。
	○各研究団体の活動支援	○要請に応じて、指導主事等を派遣し、活動支援を行った。
④幼児教育の充実		
(7) 情報提供と学習機会の充実(幼稚園)	○幼児教育に関する様々な情報の提供	○幼稚園、保育園、小・中・高等学校の教諭による特別支援ネットワーク部会を開催し、情報の共有・連携を図った。また、保護者会や園だより等を通じ、園児の様子や幼児教育に係る情報を積極的に提供した。
	○園外研修等への積極的な参加	○各園からの推薦者と担当指導主事が県主催の研修会へ参加し、他市町園教職員との情報交換を行った。
	○組織的・計画的な園内研修の推進	○年間計画に基づき、非常勤職員等も含めた園内研修を2回実施した。
	○保護者会や地域懇談会の開催	○年間計画に基づき、保護者会及び地域懇談会を実施した。
(4) 幼稚園・小学校・中学校の連携	○職場見学や職場体験を通しての交流	○小学校の職場見学習や中学校の職場体験学習を通して交流を図った。
	○諸行事を通じての交流	○学習発表会や合唱会、生活科授業等を通して交流を図った。
	○情報交換会の開催	○各種連絡会を通して情報交換を行った。
(g) 個に応じた教育の推進	○子ども発達センター、健康増進課等との連携	○関係課の職員と連携し、全小中学校への巡回訪問を2回行い、児童生徒の指導・支援に関して情報共有を図った。
	○介助や指導補助のための非常勤職員の配置	○2幼稚園に補助教員8名、支援員3名を配置した。

	○相談支援ファイル（コスモスファイル）を活用した早期就学相談の実施	○コスモスファイルを活用し、6月の就学相談会及び年間を通して個別の就学相談を実施した。
⑤読書活動の推進		
(7) 学校図書館の資料の整備充実	○学校間貸し出しの充実 ○学校図書システムの活用による学校間貸し出しの推進 ○計画的な図書資料の選定と購入 ○蔵書点検の実施	○学校図書館担当職員を学校司書が補佐し、貸し出しの充実に努めた。 ○図書システムを活用し、9の小中学校間で合計36冊の貸し出しを行った。 ○文部科学省が示す学校図書館図書標準に基づき、児童生徒への指導に適した蔵書の選定及び購入を行った。 ○閉校した小学校の蔵書整理を実施したため、点検は実施できなかった。
(4) 市立図書館との連携事業の開催	○学校図書館担当者会議、学校司書連絡会での情報交換 ○市立図書館からの団体貸し出しの利用促進 ○スクール便貸し出し事業	○学校図書館担当者を対象とした研修会を1回、学校司書を対象とした連絡会を3回実施した。 ○小中学校の要望に応じて、市立図書館から学校へ92件、4,584冊の団体貸し出しを利用した。 ○市立図書館からスクール便として、18小学校及び6中学校に年3回ずつ、書籍のセット貸し出しを利用し、読書活動推進を図った。
(9) 学校図書館の環境整備と機能の充実	○学校司書の適切な配置 ○学校司書連絡会の定期的な開催	○全小中学校に学校司書12名を配置した。 ○学校司書を対象に、10回の連絡会を実施した。
⑥国際理解教育の推進		
(7) 国際理解教育の推進	○外国語指導助手（ALT）及び日本人英語教育コーディネーターの活用 ○日本語指導員の派遣 ○小学校中学年の外国語活動及び高学年の外国語科の充実 ○小学校低学年における国際理解教育の推進 ○小学生対象の英語研修会（イングリッシュ・トレセン）の実施 ○中学生海外派遣研修の実施	○全幼小中学校に11名のALTを、12小学校に6名の英語教育コーディネーターを配置し、コミュニケーション能力の育成及び小学校英語の教科化に向けた実践力の向上を図った。 ○2名の日本語指導員を3校に配置し、外国人児童生徒や帰国児童生徒の円滑な学校生活や学習活動の保障を行った。 ○全小学校において、3・4年生は年間35時間、5・6年生は年間70時間の外国語活動を実施した。 ○全小学校において、ALTを活用した授業を年間8時間程度実施した。 ○ALTを活用し、夏季休業中に小学校3・4年生対象で半日を2回、5・6年生対象で1日の研修会を実施した。 ○8月に6泊7日の日程で、市内在住中学生20名をメルボルン市に派遣し、現地校での交流やホームステイを通して、オーストラリアの歴史や文化に触れた。
⑦特別支援教育の推進		
(7) 特別支援体制の充実	○個別の教育支援計画及び指導計画の作成と活用 ○学習指導員の配置 ○介助員の配置 ○校内支援体制の充実 ○家庭、医療、関係機関等との連携 ○適応指導教室との連携 ○研修会の開催	○児童生徒の発達段階、能力及び特性等に即した個別の教育支援計画を作成し、具体的な指導・支援に活用した。 ○18小学校及び8中学校に45名の学習指導員を配置した。 ○16小学校及び7中学校に44名の介助員を配置した。 ○児童生徒の教育的ニーズに応じて、支援学級・通常学級間の交流学習を行うとともに、校内では組織的対応を図った。 ○児童生徒個々の教育的ニーズに合わせて対応できるよう、必要に応じて指導・支援の方法に関する情報共有及び連絡調整を図った。 ○児童生徒個々の教育的ニーズに合わせて対応できるよう、必要に応じて指導・支援の方法に関する情報共有及び連絡調整を図った。 ○小中学校の特別支援教育担当者及び希望する教職員を対象に、2回の研修会を実施した。また、学習指導員及び介助員等を対象に、2回の研修会を実施した。
(4) 就学指導の推進	○就学指導委員会の開催 ○早期就学相談の実施 ○関係課（障がい福祉課・健康増進課・保育課・子育て支援課・指導課）担当者会議の実施	○11名の委員により、3回の委員会を実施した。 ○6月に就学相談会を実施するとともに、年間を通して個別の就学相談を実施した。 ○10回の5課担当者会議及び2回のネットワーク部会を実施し、支援体制の整備を図った。

⑧キャリア教育の推進	○中学校職場体験学習（印西市生き生き体験）の実施と小学校職場見学学習の支援 ○地域の企業、職業人との連携	○市内165事業所の協力のもと、全中学校で職場体験学習を実施した。小学校において、一部の事業所での職場見学の支援を行った。 ○小中学校において、民間事業所の方や職業人を講師に招き、講話会等を実施した。
------------	---	---

施策評価	A
評価理由	8項目の事業が概ね計画どおり実施されているため
今後の課題	新学習指導要領に即した評価の考え方や方法に関する理解について、各校または各教員によって差異が生じているため、校内研修あるいは校外研修を通して共通認識を深める必要がある。

(2) 豊かな心を育む教育の充実

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①情操教育の充実 (7) 道徳教育の充実 (4) 人権教育の推進 (9) 芸術文化体験事業の充実	○道徳教育全体計画の改善と校内推進体制の充実 ○道徳教育授業実践研修会の開催 ○人権教育全体計画の改善と心を育てる教育の充実 ○人権教育研修の実施 ○いじめに関するアンケートの定期的な実施 ○家庭・地域や関係機関との連携による人権意識の啓発 ○さわやかハートフルコンサートの開催 ○小学校芸術鑑賞教室の開催	○各校の道徳教育推進教師を中心に計画の見直しや指導の実践を図った。 ○小中学校から推薦された教職員を対象に、3回の研修会を実施した。 ○国や県の動向を踏まえた各校の取組について指導・助言を行った。 ○要請のあった小中学校で、指導主事等による人権教育に関する校内研修を6回実施するとともに、教育センターの夏季研修会で人権教育研修会を1回実施した。 ○全小中学校で定期的なアンケート及び事後の教育相談を実施し、いじめの未然防止、早期発見、事態解決を図った。 ○学校からの便り及び学校ホームページ等を通じて、学校の取組について情報発信した。 ○小学校5年生、音楽系部活及び中学校代表生徒を対象に、日頃の音楽練習の成果を発表し合う場としてコンサートを開催した。 ○小学校6年生全員を対象に、古典芸能（狂言・落語）の鑑賞教室を開催した。児童数増加から事業を1日開催から2日開催に変更した。
②体験活動の推進 (7) 体験活動の充実	○奉仕等体験活動の実施 ○自然科学体験学習の実施 ○みどりの少年団活動の推進 ○親子体験学習の実施	○各校では年間計画に基づき、学校や地域の美化活動を実施した。 ○各校では年間計画に基づき、児童生徒や地域の実態に応じた自然体験学習を実施した。 ○全小中学校で緑化活動に取り組んだ。千葉県みどりの少年団交流集会には2小学校が参加した。 ○児童生徒・保護者を対象に、里山観察会及び星空観察会を実施し、計80名が参加した。また、児童生徒・保護者を対象に、産学官連携科学講座、わら細工体験教室を実施し、計69名が参加した。
③郷土愛を育む教育の推進 (7) 郷土愛を育む教育の推進	○各小・中学校に設置している歴史資料室の内容の充実 ○地域の伝統芸能の体験	○掲示物及び展示物等の見直しや更新を行い、内容の充実に努めた。 ○各校では年間計画に基づき、太鼓や舞踊等の伝統芸能を体験した。
④きめ細やかな教育支援の推進 (7) 適応指導教室事業の推進 (4) 教育相談の充実	○適応指導教室の充実 ○適応指導教室連絡会の実施 ○面接相談・電話相談の充実 ○不登校児童生徒等の相談の充実 ○関係機関との連携	○中学生19名、小学生15名の計34名が通室し、改善が見られた児童生徒は31名であった。 ○学期1回の保護者会「あったまる会」を設け、毎回1～3名程度の保護者が参加し、情報交換を行った。 ○面談件数は147件、電話相談件36件のうち、子ども相談室の利用は28件であった。 ○定期的にケース会議を実施し、訪問相談担当教員やスクールソーシャルワーカー等との連携を図った。 ○学校だけではなく、子ども発達センター等、市の相談機関との連携を図った。

	<ul style="list-style-type: none"> ○訪問指導の充実 ○スクールカウンセラー等の活用 ○学校諸問題に対する助言・指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○訪問相談担当教員やスクールソーシャルワーカーを活用し、相談の充実を図った。 ○9中学校、3小学校に配置されたスクールカウンセラーが、児童生徒及び保護者の相談に関わった。 ○2名の学校問題対策指導員が、学校の諸問題に対して、広い視野から総合的見地に立って指導・助言を行った。
--	--	---

施策評価	A
評価理由	4項目の事業が概ね計画どおりに実施されているため
今後の課題	適応指導教室に通室する児童生徒数が増加するとともに、教育的ニーズも多様化しているため、教室増設の検討・整備の必要がある。

(3) 健やかな体を育む教育の充実

事業	事業内容(平成31年度目標)	平成31年度実績
①学校体育の充実		
(7) 学校体育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○体育主任会議の開催 ○小学校駅伝競走大会の開催 ○中学校武道学習における外部指導者の活用 ○授業や大会等における順天堂大学との連携強化 ○運動に親しむ能力を育成するための授業改善指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○会議を小学校2回、理論研修会を小中学校1回ずつ実施した。 ○全小学校の男子34チーム、女子33チームの参加により実施した。 ○県の特別非常勤講師配置事業により、2中学校に2名の外部人材を配置し、活用した。 ○小学校駅伝競走大会にて、伴走等で陸上競技部学生3名の協力を得て実施した。 ○各校からの要請に基づき、指導主事を派遣し、体育科(保健体育科)学習の授業改善を図った。
(4) 運動部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動サポート事業による指導者派遣 ○部活動補助金交付事業による経済的支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動サポーター24名を派遣し、技能及び競技力の向上を図った。 ○各種大会及び関東大会並びに全国大会参加者11人の交通費等の経費について支援を行った。
②学校保健衛生の充実		
(7) 健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○保健指導教材の整備 ○薬物乱用防止教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健指導教材(血管模型)や歯科保健指導教材(位相差顕微鏡・かみかみセンサー)を各校へ貸し出し、事業の充実を努めた。 ○北総地区少年センター職員を講師とした薬物乱用防止教室を実施するとともに、薬物の依存性や怖さについて保健体育科の授業を行った。
(4) 学校保健会の活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○学校医、学校歯科医、学校薬剤師との連携 ○各専門部会(学校薬剤師、栄養士、養護教諭)の活動の支援 ○「印西市の学校保健」(小冊子)と学校保健会報の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校保健理事会を1回実施した。 ○学校薬剤師部会を2回、栄養士部会を3回、養護教諭部会を4回、保健活動部会を2回、アレルギー対策検討会を2回実施した。 ○「印西市の学校保健」を1回、学校保健会報を2回発行した。
(7) 健康診断の実施と事後措置の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○就学前児・児童・生徒の健康診断の実施 ○健康診断結果の集計と分析 ○個別指導の充実(治療勧告) 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒への定期健康診断(内科・歯科・耳鼻科・眼科・尿検査・結核等)及び就学時健康診断を実施した。 ○健康診断結果を「印西市の学校保健」にまとめた。 ○健康診断結果に基づき、個別指導を実施した。
(2) 小児生活習慣病の予防	<ul style="list-style-type: none"> ○小児生活習慣病予防検討部会の開催(学校医、養護教諭、栄養教諭等) ○小児生活習慣病予防検診の実施(小学校5年生、中学校1・3年生対象) ○養護教諭、栄養教諭等による小児生活習慣病予防教室及び事後指導・個別相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○1回開催し、結果に基づいた事後指導等について検討した。 ○小学校5年生、中学校1・3年生を対象に検診を実施し、必要な児童生徒に受診勧奨を行った。 ○小学校5年生を対象に1単位時間、中学校1年生を対象に2単位時間の予防教室を実施し、必要に応じて個別に事後指導や相談を行った。
(4) 口腔衛生事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校歯科保健検討部会の開催(学校歯科医、養護教諭、歯科衛生士等) ○学校歯科医、歯科衛生士等による歯科相談・ブラッシング指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○2回開催し、結果に基づいた事後指導及びブラッシング指導、要医療者の受診率向上について等について検討した。 ○全小中学校で学校歯科医や歯科衛生士による歯科保健指導を実施した。

(カ) 保健室機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○保健室の整備 ○健康相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○各校からの要望に基づき、消毒薬等の衛生物品の配付を行った。 ○養護教諭の資質向上と児童生徒の健康課題解決を目指して、養護教諭部会の中に保健指導班を設け、研鑽を積んだ。
(キ) 学校環境衛生の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○環境衛生検査の実施 (水質検査, 照度検査, 空気検査等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○照度・照明検査, 飲料水・プール水質検査, 空気環境調査 (ホルムアルデヒド・二酸化炭素・二酸化窒素), ダニアレルゲン検査, 配膳室衛生検査を実施した。

施策評価	A
評価理由	2項目の事業が概ね計画どおりに実施されているため
今後の課題	平成27年度から養護教諭部会及び健康増進課と連携して準備・試行に取り組んできた性(生)に関する指導が、令和2年度より市内全小中学校での本格実施となるため、より綿密な連携が必要である。

(4) 学校給食の充実

事業	事業内容(平成31年度目標)	平成31年度実績
①学校給食の充実		
(7) 食に関する指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「印西市食育ミニマム」や食に関する指導の全体計画に基づいた組織的な指導 ○栄養教諭・養護教諭・学級担任等の連携による食育指導 ○栄養教室・食育の授業の開催 (全小学校1・3年生, 希望する小学校の2・4・6年生に実施) ○小児生活習慣病予防教室の開催 (全小学校5年生・全中学校1年生対象) ○家庭・地域と連携した食育の推進 ○ちば食育ボランティア, ちば食育サポート企業の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○食育の必要性について教職員への周知を徹底し、「印西市食育ミニマム」に基づいた組織的な指導を実施した。 ○各種授業や給食時の訪問等で、学校と連携を図りながら実施した。 ○小学校1年生「みんなの給食」、小学校3年生「野菜パワーのひみつ」を全クラスで実施した。小学校2年生「3つのなかまわけ」(16校), 小学校4年生「元気が出る朝ごはんを考えよう」(16校), 小学校6年生「栄養を考えた朝食にしよう」(15校)を希望校で実施した。 ○養護教諭及び給食センター栄養士の指導により、小学校5年生「生活習慣病を予防しよう」、中学校1年生「バランスの良い朝食を食べて生活習慣病を予防しよう」を全小中学校で実施した。 ○食育つうしんを年12号発行し、家庭への啓発を行った。授業終了後、指導内容がわかる保護者資料の配付とともに家庭と連携した事後活動を実施した。 ○全小中学校に啓発資料を配付し、活用を促した。
(4) 学校給食の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○献立の工夫と改善 ○衛生管理の徹底 ○給食残渣等の再資源化 ○食物アレルギーへの対策 ○学校給食センター老朽化への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○印西市産の食材を56%, 千葉県産を13%使用し、地産地消を推進した。 ○衛生管理に関する研修会を行った。 ○給食残渣の堆肥化を業者に委託し、その再資源化を図った。 ○食物アレルギーの保健調査票を基に使用食品一覧表, 加工食品分析表を保護者に配付し, 事故防止に努めた。また, 中央学校給食センターでは, 対応給食(卵・乳の除去食)の提供を開始した。 ○経年劣化や破損による修繕の必要な箇所に対して随時対応した。

施策評価	A
評価理由	事業がおおむね計画どおりに実施されているため
今後の課題	学校給食センター(牧の原, 印旛)の老朽化が進んでいるとともに、将来的に児童生徒数の急増が見込まれるため、それらに対応した整備計画を作成する必要がある。

2 安全で安心できる教育環境づくり

(1) 教育環境整備の充実

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①学校・幼稚園施設の充実 (7) 安全な学校・幼稚園施設等の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校の大規模改修事業及び校舎増築事業 ○管理・教材備品等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○木刈中学校校舎増築工事の実施設計，原山中学校大規模改修工事の実施設計及び西の原中学校校舎増築工事を行った。 ○机・椅子について1,525組を整備した。
②就学援助の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に就学援助を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○要保護・準要保護家庭の小学校入学予定者10名，小学校241名，中学校158名，児童生徒合わせて409名に対して就学援助費を給付した。

施策評価	A
評価理由	概ね計画通りに実施できた。
今後の課題	就学援助制度を必要とする家庭が利用できるようにするため，引き続き，周知を行っていく必要がある。

(2) 学校の適正規模・適正配置の推進

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①学校の適正規模・適正配置の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校適正規模・適正配置基本方針における検討対象校の適正化に向けた検討と調整 ○学校適正配置審議会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○船穂小学校区及び本埜中学校区の保護者に対し，説明会や意見交換会を開催した。 ○印西市学校適正規模・適正配置基本方針の見直しについて諮問を行い，3回の審議会を開催した。

施策評価	A
評価理由	印西市学校適正規模・適正配置基本方針に基づき，保護者に対し，説明会や意見交換会を開催した。また，学校適正配置審議会に印西市学校適正規模・適正配置基本方針の見直しについて諮問を行い，審議会を開催した。
今後の課題	印西市学校適正規模・適正配置基本方針に基づき，保護者及び地域住民に理解が得られるよう，引き続き，意見交換等を開催していく必要がある。

(3) 学校安全の推進

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①安全教育の充実 (7) 安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全教室の実施（公立幼稚園・小中学校） ○防犯教室の実施（公立幼稚園・小中学校） ○避難訓練の実施（公立幼稚園・小中学校） 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全教室を全幼稚園・全小中学校で実施した。 ○防犯教室を全幼稚園・全小中学校で実施した。 ○避難訓練を全幼稚園・全小中学校で実施した。
(4) 児童生徒・園児の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○防災計画・学校安全マニュアルの見直しと定期的な施設点検の実施に関する指導・助言 ○防犯ブザーの貸与（小学新入生対象） ○自転車通学用ヘルメット貸与（小中学新入生対象） ○メール配信システムの活用（公立幼稚園・小中学校） ○防災行政無線を活用しての見守り活動の推進 ○安全主任等研修会の開催 ○「こども110番の家」の推進 ○台風・雷雨・竜巻等自然災害対応安全指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全主任研修会で指導・助言するとともに，各校より提出された防災計画・学校安全マニュアルの内容の点検を行った。また，諸表簿点検の際に指導主事等による確認を行った。 ○防犯ブザーを小学校1年生及び転入生に貸与した。 ○自転車通学用ヘルメットを中学校1年生に貸与した。 ○防犯情報，活動予定等を保護者等にメール配信し，主に緊急を要する情報の提供を図った。 ○継続的に実施した。 ○小中学校の安全主任を対象に，1回の研修会を実施した。 ○全小中学校で「こども110番の家」の設置を推進した。 ○自然災害への対応について，事前に各校へ注意喚起を促すとともに，各校では児童生徒への指導を行った。

(f) 通学路の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○理科薬品の安全管理の指導 ○定期的な通学路安全点検の実施と警察・道路管理者等と連携した対応 ○児童・保護者・教師等の点検による全小学校区の安全マップの作成及び関係機関への配付 	<ul style="list-style-type: none"> ○理科薬品管理簿の点検（全校）と薬品庫の点検（2校）を行い、確認事項や改善が必要な点について指導・助言を行った。 ○「印西市通学路交通安全プログラム」に基づき、全小学校で通学路の点検を実施するとともに、関係各課・関係機関と連携し、通学路の改善を図った。 ○安全マップを小学校1年生及び転入生に配付し、学区内の危険個所に対する注意喚起を行った。
(g) 学校管理下における災害共済給付	<ul style="list-style-type: none"> ○日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入の推奨 ○災害給付手続きに関する学校への情報提供及び指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○各校を通じて加入を推奨し、加入率は100%であった。 ○手続きに関する手引きを各校に配付するとともに、研修会等で指導・助言を行った。

施策評価	A
評価理由	事業がおおむね計画どおりに実施されているため
今後の課題	頻繁に局地的大雨が発生し、通学路が冠水する機会が増えているため、降雨量や冠水箇所などを的確に把握・分析し、児童生徒の安全な登下校に関して適切に判断する必要がある。

(4) 開かれた学校づくり

事業	事業内容（平成30年度目標）	平成31年度実績
①学校情報公開と地域の連携	<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページを活用した学校広報の充実 ○教育センターホームページを活用した各学校の取り組みの共有化 ○地域人材の活用（学校・家庭・地域の連携） ○学校評価による学校教育の改善 ○学校公開授業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○全小中学校がホームページを通して積極的に情報を発信し、全校で年間約410万件のアクセスを得た。 ○教育センターホームページで各校の様子や取組を紹介し、情報共有の推進を図った。 ○読み聞かせや高齢者との交流、職業人の講話等、各校の指導計画に基づき、活用の工夫に努めた。 ○各校で学校評価を実施し、結果をホームページ上などで公開した。 ○各校で公開授業（授業練磨の公開日）や休日の参観日を実施し、授業公開の推進を図った。

施策評価	A
評価理由	事業が概ね計画どおりに実施されているため
今後の課題	各学校のホームページの内容の充実度に差があるため、各校のコンテンツの見直しと整理が必要である。

(5) 情報化社会に対応した教育の推進

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①教育関係資料の収集・活用・教育広報	○教育資料の収集・活用・提供	○各校で実施した研究授業の指導案約200本をデータベースに新規追加し、市内全校で活用できるようにした。
	○学校間グループウェアと文書管理システムを活用した教育関係資料・各種文書の電子化及び共有化	○教育委員会からの通達文書はグループウェアを利用して円滑に接受・校内回覧が行われるようにした。
②情報教育及びICT活用の推進	○教育センターホームページによる教育広報推進	○教育センターホームページに各校の様子や取組を日々紹介し、年間30万件余りのアクセスを得た。
	○学校ホームページ及びメール配信システムの広報的機能強化	○小中学校ホームページにて日常的に情報を発信しており、市内小中学校全体で年間約410万件のアクセスを得た。
	○SNS等対応ネットリテラシー教育の充実	○小中学校の要請に応じて、児童生徒・保護者を対象に、指導主事等によるSNSネットリテラシー出前授業を11回実施した。
	○教科指導用ICT関連環境整備の充実	○各小中学校に整備されたタブレット端末の維持管理に努めた。
	○校務システムの機能充実	○生徒指導情報の一元管理について周知を図り、機能利用推進を図った。
	○校務システムを活用した学籍・成績・保健等の校務情報化推進	○指導要録をはじめとする学籍・成績の情報を一元管理し、安全性の確保並びに業務の効率化の推進を図った。
	○公募や文書、教育情報の電子化の推進	○教育委員会からの通達文書のほぼ全てをデジタル化して、各校へ発信した。グループウェアの機能を利用して、校内デジタル回覧の推進を図った。
	○各システムやサーバー・端末等の適正な運用管理	○保守管理の委託業者が適宜対応し、トラブルの未然防止と早期対応を図った。
	○情報セキュリティポリシー遵守の徹底	○管理職を対象とした研修会及び異動者を対象とした研修会等で情報セキュリティポリシーについて伝達し、周知を図った。
	○教育CIOの配置、ヘルプデスク設置	○校務システムに関するヘルプデスクを常設し、市内教職員の操作上の質問について迅速に回答した。
○情報教育及び教科におけるICT活用に関する研修の実施及び各学校への出前講座実施	○ICT活用に関する校内研修に指導主事を派遣し、指導・助言を行った。また、個別の要請に対しても指導主事が対応し、授業での機器利用推進を図った。	
○学校図書館システムの活用推進	○学校図書館担当者を対象に、2回の図書システム研修会を実施した。	

施策評価	A
評価理由	2項目の事業が概ね計画どおりに実施されているため
今後の課題	GIGAスクール構想の実現により児童生徒1人につき1台の端末が整備されるため、学習における効果的なICT活用について研修を深めるとともに、実践を重ねていく必要がある。

Ⅱ. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する [生涯学習・生涯スポーツ]

1 年齢にとらわれずにいきいきと暮らすための生涯学習活動

(1) 生涯学習情報の充実

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①生涯学習ガイドの発行	○生涯学習ガイドの発行 ○冊子内容を市ホームページでも提供	○300部発行。講師、講座、団体、資料、物品、施設情報の掲載を行った。各公民館・図書館・学校・コミュニティセンター・保健センター・老人福祉センター等の窓口への配布を行った。 ○市ホームページへの掲載を行った。年度途中で講師情報の追加があった場合は、HPを更新して対応した。アクセス件数723件。

施策評価	A
評価理由	予定部数を発行し、ホームページにも掲載を行い、情報提供の目的は概ね達成された。
今後の課題	例年8月に発行しているため、市民への情報提供が遅くなっていることから、発行時期を年度当初に早める必要がある。

(2) 多様な学習機会の提供

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①市民アカデミーの充実 【リーディング施策関連事業】	○市民アカデミーの充実 ○市民アカデミープロジェクトチームによる学習計画の充実・運営 ○公民館・地域交流館などの事業での活用の充実	○1年生29名48回、2年生24名17回と自主勉強会を随時、地域活動課程7名12回を実施 市民活動へ導くためのプログラム編成にしたことにより、学んだあとに市民活動団体に加入するなど市民活動の推進につながった。 ○推進係より2名、各公民館・中央駅前地域交流館よりアカデミー担当者各1名、社会教育指導員1名により学習プログラムやアカデミー生の募集の仕方について協議を行った。 ○自主勉強として公民館・地域交流館などの事業を紹介し、講座にも参加することを勧めている。
②公民館・地域交流館主催事業の充実 【リーディング施策関連事業】	○市民ニーズや社会的課題をとらえた事業の実施 ○子ども対策事業の充実 ○大人対象事業の充実 ○団体や行政等との共催事業の充実	○IT関連講座 3講座（延べ212人） ○整理収納関連講座 1講座（延べ10人） ○健康関連講座 3講座（延べ295人） ○印西市新発見バスツアー 計2回（延33人）を実施（中央駅前地域交流館） ○スポーツ、工作、芸能、学習講座等 38事業（延べ29,878人） ○わくわく探検隊 計6回（延99人）を実施（中央駅前地域交流館）、科学あそび 計2回（延36人）を実施（中央駅前地域交流館） ○趣味、教養、工芸、料理講座等 24事業（延べ5,208人） ○はつらつクラブ 計8回（延173人）を実施（中央駅前地域交流館）、季節の料理講座 計3回（延50人）を実施（中央駅前地域交流館） ○かるた大会、科学遊び、読み聞かせ、野外教室等（印西市民アカデミーを除く）13事業（延べ388人） ○初心者向けパソコン講座 計9回（延114人）を実施（中央駅前地域交流館）
③図書館サービスの充実	○図書・視聴覚資料などの貸出 ○レファレンスサービス・事業・資料の充実	○市立図書館6館において、延べ248,320人の利用者に対し、780,629点の図書館資料貸出を行った。 ○市立図書館6館において、窓口・電話でのレファレンスを21,546件受付した。年間を通して事業を実施した。16,432点（購入・寄贈）の資料を受け入れて、資料を充実した。 図書館は、新型コロナウイルス拡大防止のため、2月29日から利用休止したため、上記は2月28日までの実績である。
④生涯学習まちづくり出前講座の充実 【リーディング施策関連事業】	○市民の学習機会を増やし、市民参画のきっかけとなる生涯学習まちづくり出前講座の充実	○市ホームページの他、広報、町内会の回覧で出前講座の周知に努めた。83件1,621人が受講した。

施策評価	A
評価理由	市民活動へ導くためのプログラム編成をしたことにより、学んだあとに市民活動に参加する卒業生が増加している。
今後の課題	事業内容の充実に努め、受講者の満足度の高いものになるように取り組む。

(3) 生涯学習環境の整備・充実

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①生涯学習環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ○公民館・地域交流館や図書館の適正な維持・改修 ○生涯学習機能の充実 ○社会教育主事などの配置 ○文化ホール・大森図書館大規模改修事業 ○ふれあい文化館大規模改修事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○公民館・地域交流館設備等の修繕を行い、施設の適正な維持に努めた。 ○各公民館・交流館でそれぞれの地域の特徴を生かした主催事業を展開した。 ○市立図書館6館において、幼児・小学生を対象におはなし会や図書館探検隊、図書館クイズ、ブックスタンプラリー、科学あそび、クリスマス会、ほんのおみくじ、一般成人を対象に大人の図書館探検隊等各種事業を実施した。 ○生涯学習課に1名配置し施策、事業の推進に努めた。 ○印西市文化ホール・大森図書大規模改修工事を実施中(令和元年度～令和2年度)。 ○大規模改修工事に係る実施設計を行った。

施策評価	A
評価理由	概ね計画どおりに実施されている。
今後の課題	生涯学習施設の老朽化に伴い、経常的な修繕等の発生が見込まれる。また、生涯学習機能を効果的に発揮するため、施設の管理運営を含めた推進体制等についても検討していく必要がある。

(4) 高等教育機関等の連携協力

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①産学官民の連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> ○大学などの高等教育機関や企業などとの連携協力 ○市民・市民団体との連携・協力 	<ul style="list-style-type: none"> ○順天堂大学公開講座（順天堂大学・印西市・酒々井町共催）を実施。内容はバラスポーツ体験会、サッカー教室、バレーボール教室、陸上競技教室、10月20日、11月3日、10日、17日の日曜日（全4回）に開催し、市から33名の親子が参加した。 ○市民アカデミーの講師として、NPO法人を含む市民団体を活用し、講座の充実を図った。（8団体）
②社会教育関係団体の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○社会教育関係団体の支援 ○ボランティアの育成や地域で活動する個人・団体のネットワーク化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○補助金による活動支援、事業後援等により活動を側面から支援した。（後援：24事業） ○アカデミーのプログラムを市民活動へ導くための編成にしたことにより、受講生が市民活動団体に加入したり、自ら団体を組織した。

施策評価	A
評価理由	概ね計画通り実施されている。
今後の課題	市民のニーズを把握したうえで、大学・企業・団体との連携した事業の更なる充実を図っていく必要がある。

2 地域で子どもたちを守り育てる環境づくり

(1) 青少年の健全育成活動の推進

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①「こども110番の家」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○こども110番運営委員会などの支援 ○こども110番ステッカー・看板の提供 ○こども110番の家災害補償保険の加入 	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども110番運営委員会を5月31日に開催し、事業趣旨等の説明により、協力依頼や事業の周知を図った。 ○新規の協力申し込みや破損等による交換などに対応をした。協力家庭数及び事業所数の調査を行った。（1, 413件） ○協力家庭及び事業所等の不測の事態に備え、保険に加入した。
②青少年健全育成大会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○親子で参加し、考える機会となる青少年健全育成大会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○「社会を明るくする運動」とともに7月7日（日）に開催。「社会を明るくする運動」作文コンテストの被表彰者による朗読、小学校・中学校、印西ゆめ太鼓による舞台発表を行った。参加者410名。
③地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実【リーディング施策関連事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校区ごとに学校や地域で活動する団体が協力し、コミュニティづくりと生活環境の整備を図る地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○6中学校区（船穂中、木刈中、小林中、西の原中、滝野中、本壱中）で事業に取り組み、安全パトロール、声かけ運動、バザー等の事業を地域の団体が連携協力し学校とともに活動した。また、全体会を実施し、各地区の活動事例報告や意見交換を行って情報の共有化を図った。
④放課後子ども教室の実施【リーディング施策関連事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○放課後子ども教室の実施・支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○滝野小学校56名・14回、船穂小学校20名・30回で教室を実施した。
⑤成人記念式典の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○新成人運営スタッフの企画・運営による成人記念式典の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○34名の運営スタッフにより3回の会議を行い、企画・準備にあたり、式典当日の運営を行った。
⑥子ども読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館での読み聞かせ等の実施 ○学校での読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○通年で行うおはなし会に1, 356名（全館）、夏のおはなし会に350名（大森、印旛、本壱）、ぬいぐるみといっしょのおはなし会に25名（本壱）、クリスマス会に201名（小林、小倉台、本壱）の参加者があった。春のおはなし会（そうふけ）は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止された。 ○ホームページなどを活用した広報・啓発を行った。

施策評価	A
評価理由	概ね計画通り実施されている。
今後の課題	家庭や地域を含む社会全体の教育力の向上のため、学校・家庭・地域の連携・協働を推進していく必要がある。

(2) 家庭教育の推進

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①家庭教育学級の充実【リーディング施策関連事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○各公立幼稚園・小中学校での家庭教育学級開設 ○家庭教育学級主事会議の開催 ○家庭教育学級運営委員研修会の開催 ○家庭教育指導員の配置 	<ul style="list-style-type: none"> ○必修29学級、学年13学級、計42学級開設。参加延べ人数3, 894人の方が学級生として学んだ。 ○幼稚園長・小中学校教頭に、家庭教育学級主事を委嘱、指導・助言にあたってもらった。4月15日と2月6日の2回主事会議を開催した。 ○各学級代表者を対象に、4月25日と2月13日の2回研修会を実施した。 ○家庭教育指導員を1名を配置し、指導助言にあたった。

施策評価	A
評価理由	概ね計画どおり実施されている。
今後の課題	より多くの方が参加しやすくなるように、開催日を学校行事に合わせるなど日程を検討する必要がある。

Ⅲ. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化芸術〕

1 創造性を育む文化・芸術活動の推進・継承

(1) 文化芸術に触れる機会の拡大

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①文化・芸術事業の充実 【リーディング施策関連事業】	○文化ホール主催事業等の実施	○鑑賞型5事業，地域文化振興型1事業の計6事業を実施した。
施策評価	A	
評価理由	計画した6事業すべて実施し，鑑賞型有料公演4事業のうち1事業を完売した。平均売上率も目標である80%を達成したため。	
今後の課題	集客の見込める事業だけでなく幅広い分野の文化・芸術事業の鑑賞機会の提供に努めながら，更なる売上率の向上を図る。	

(2) 市民の自主的な活動の支援

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①文化芸術活動の支援 ②地域文化活動の支援 【リーディング施策関連事業】	○市民文化祭の実施 ○芸術文化団体活動への支援 ○芸術文化情報の提供 ○市民の地域文化活動への支援	○新規に体験部門協力団体の公募を行い，11種の体験を実施した。参加者及び来場者数は6,337人であった。期間：令和元年10月27日～11月30日 ○事業の共催や後援により，団体活動の支援を行った。 ○公民館・文化ホール等の窓口へのポスター・チラシ等の配布，市ホームページへの掲載，関係団体への資料提供を行った。 ○木下まち育て塾による印西市木下地区歴史講座事業や，小林住みよいまちづくり会による道作古墳群歴史広場整備活用事業を市教育委員会との協働により実施するなどの活動支援を行った。
施策評価	A	
評価理由	事業は概ね実施できた。	
今後の課題	市民文化祭の部門により参加者数に偏りがあること及び芸術文化団体会員数減少に対する支援がそれぞれ必要である。	

(3) 子どもをはじめとする次世代の育成

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①子どもたちの文化芸術活動の充実 ②芸術文化活動を支える人材育成の推進	○文化芸術活動体験の実施 ○芸術文化協会と連携し，地域の文化芸術活動を支える人材育成を支援する。	○文化祭において，押花，茶道等の体験会の公募を行い，より多種多様な内容で実施するなど子供が参加しやすい事業を実施した。 ○印西市芸術文化協会と連携し，各団体の公益的で自主的な活動のサポートを行った。
施策評価	A	
評価理由	各事業において，概ね順調に実施できた。	
今後の課題	子どもたちの活動として多様な選択肢がある中で，自発的・継続的に文化芸術活動に取り組めるような魅力的なコンテンツを継続して開発する必要がある。	

2 文化財の保護・活用

(1) 文化財の保護

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①指定文化財保護事業	<ul style="list-style-type: none"> ○有形文化財、史跡及び天然記念物の保存 ○無形民俗文化財の継承支援 ○文化財の普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財所有者に対し、保存・管理に関する指導・助言及び文化財保存管理経費に伴う補助金の交付を行った。また、市指定史跡の環境保全に努めた。補助金交付 6団体199,000円 ○指定無形民俗文化財の保存会や各伝承者に対し、保存・継承に関する指導・助言を行った。また、保存・継承活動に対し補助金を交付した。補助金交付 6団体1,879,000円 ○文化財防災訓練を実施し、地域における文化財愛護思想の普及と防災意識の向上に努めた。
②文化財基礎調査事業	<ul style="list-style-type: none"> ○仏像調査・石造物調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○印旛地区において仏像調査を実施した。本埜地区において石造物調査の報告書の刊行準備を実施した。
③埋蔵文化財の保護事業	<ul style="list-style-type: none"> ○市内主要遺跡調査の実施 ○埋蔵文化財の取扱い事務及び埋蔵文化財包蔵地の保護 ○道作古墳群活用事業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○道作1号墳の発掘調査及び道作6号墳のレーダーによる地中探査を行った。 ○開発行為等に伴う発掘調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の保護に努めた。 ○企画提案型協働事業として、NPO法人小林住みよいまちづくり会と協働し道作古墳群見学会等の事業を実施した。

施策評価	A
評価理由	各事業において、概ね順調に実施できた。
今後の課題	泉新田大木戸野馬掘遺跡等の史跡についての周知及び見学環境の向上に努めていく必要がある。また、文化財保護と活用に向けた石造物や仏像の基礎調査を継続して実施するとともに、成果の公表に向けた具体的な準備を行う必要がある。

(2) 文化財の活用

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①文化財の活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ○有形文化財、史跡及び天然記念物の活用 ○無形民俗文化財の公開 ○埋蔵文化財の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○民具の収集・公開事業を実施した。 ○指定無形民俗文化財の公開について、事業の周知・支援を行った。また、指定無形民俗文化財映像記録DVDの貸出を行い、地域での伝承や教育に活用した。 ○NPO法人小林住みよいまちづくり会と協働で、道作古墳見学会を実施した。また、道作1号墳発掘調査に係る現地説明会を開催し、発掘成果の周知に努めた。
②印旛歴史民俗資料館運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ○市域の考古、歴史、民俗等の資料の収集・保管・調査・研究及び成果の公表 ○常設展示及び企画展示の実施 ○講座及び体験型事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○収蔵資料の燻蒸消毒を実施し、研究紀要第2号を刊行した。 ○常設展示 主に印旛地区の民俗、考古、歴史資料を展示し、展示の一部を更新した。収蔵資料燻蒸消毒及び新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、8月10日～14日及び2月29日～3月31日を臨時休館とした。開館日数257日、来館者数772人。 ○歴史講座 1講座の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止した。 ○体験講座 木下貝層採集観察会、しめ縄づくり体験会を開催し、計37人の参加者があった。
③郷土資料の収集・保存・展示	<ul style="list-style-type: none"> ○分散化した歴史的資料の集約化の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○考古資料や民具などの歴史的資料を収集する際に資料の集約化に努めた。
④観光事業等の連携による文化財の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の文化財への理解の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○道作1号墳の見学会を実施し、地域の文化財への理解の推進に努めた。

施策評価	A
評価理由	各事業において、概ね順調に実施できた。
今後の課題	文化財の有効な活用方法について、検討していく必要がある。

3 市史編さん事業の推進

(1) 市史編さん事業の推進

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①市史編さん事業	<ul style="list-style-type: none"> ○市史刊行に向けた資料収集・調査等の実施 ○市史講座等の実施 ○市史及び市史研究誌の刊行 ○市史刊行物の頒布 	<ul style="list-style-type: none"> ○編集会議2回 中世部会 調査の実施22回 近世部会6回 古文書調査、古文書筆耕17点 近現代部会46回 編集作業 筆耕646点 ○市史編さん講座全5回78人 ○資料編近現代2、印西の歴史12を刊行した。 ○223冊 無償頒布314冊（資料編近現代2）

施策評価	A
評価理由	4項目の事業が概ね計画通り実施されている。
今後の課題	事業実施体制の充実を図り、市史刊行の適正な進捗に努める。

(2) 地域史料の保存と活用

事業	事業内容（平成31年度目標）	平成31年度実績
①地域史料の保存及び活用	<ul style="list-style-type: none"> ○木下交流の杜歴史資料センターの管理・運営 ○古文書等の調査及び収集 ○古文書等の整理及び保存活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○開館日数261日、来所者数2,829人 ○展示事業 常設展示（通年） ○木下宝田家文書（第2次）調査2回、整理15回 ○保管している古文書等の整理を行った。
②歴史公文書の収集、整理保管	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史公文書の引継、整理保管 	<ul style="list-style-type: none"> ○移管文書82箱 令和元年度引き継ぎ件数 1,355件 保管総数 41,595点

施策評価	A
評価理由	4項目の事業が概ね計画どおりに実施されている。
今後の課題	事業を継続するとともに、資料の整理を進め、資料の活用を図る。

リーディング施策（指導課指導班）

《平成31年度 主な取り組み》

- * 学校教育において必要な活動を学校と地域・家庭が連携・協力する仕組みを構築し、活動を開始します。
- * 市民アカデミーや出前講座を通じて、地域づくりの担い手や生涯学習ボランティアの育成に努め、生涯学習ガイドを充実させます。
- * 子どもの頃から文化芸術に親しむ機会を増やすことや地域に根ざした文化芸術活動を充実させ、学校教育や生涯学習と連携しながら、「知」「徳」のライフステージに合わせた学びを充実させます。
- * 大学などと連携して、「知」「徳」「体」の連携方策を検討し、「総合型プログラム」を作成する体制を検討します。

担当課・係	指導課指導班
-------	--------

方 向 性	・市民一人ひとりが、生活の質の向上と健やかな心と体を育む学びを推進する。
-------	--------------------------------------

基本目標の取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域・家庭が連携・協力した活動を推進する。 ・地域に根ざした文化芸術活動を充実させる。 ・大学やボランティアなど多様な主体の協力と参画を得て、地域全体で教育の充実を目指す。
平成31年度の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校では、学校ホームページを活用し学校の取組や児童生徒の生活の様子を積極的に発信・広報するとともに、学校参観や1000ヵ所ミニ集会などを実施し家庭や地域の連携・協力を努めた。 ・小学校5年生、中学校代表生徒及び音楽系部活動を対象に、日頃の音楽活動の成果を発表し、鑑賞し合う場として さわやかハートフルコンサートを開催した。延べ3日間5公演でおよそ2,300名の児童生徒の参加があり、音楽を愛好する心や豊かな情操の育成を図った。 ・小学校6年生を対象に、狂言や落語などの古典芸能に触れる鑑賞教室を開催した。延べ2日間3公演でおよそ1,100名の児童の参加があり、伝統芸能についての理解に努め、それらを尊重する態度の育成を図った。 ・秀明大学や順天堂大学、日本医科大学看護専門学校などの教職インターンシップやボランティアの受入を支援するとともに、順天堂大学と連携し市内小中学校におけるオリンピック・パラリンピック教育を推進した。

●教育振興基本計画上の数値目標

指 標 名	現況値 (平成28年度)	目 標 値 (平成33年度)	実 績 (平成31年度)	説 明
1000ヵ所ミニ集会の開催	全小中学校	/	全小中学校	
さわやかハートフルコンサートの開催	3日間5公演	/	3日間5公演	
小学校芸術鑑賞教室の開催	1日間2公演	/	2日間3公演	
オリ・パラ教室の開催	0校	/	13校	シティープロモーション課との連携

●目標の達成度

●いずれも予定通り実施できた。

リーディング施策(生涯学習課推進係)

≪平成31年度 主な取り組み≫

- * 学校教育において必要な活動を学校と地域・家庭が連携・協力する仕組みを構築し、活動を開始します。
- * 市民アカデミーや出前講座を通じて、地域づくりの担い手や生涯学習ボランティアの育成に努め、生涯学習ガイドを充実させます。
- * 子どもの頃から文化芸術に親しむ機会を増やすことや地域に根ざした文化芸術活動を充実させ、学校教育や生涯学習と連携しながら、「知」「徳」のライフステージに合わせた学びを充実させます。
- * 大学などと連携して、「知」「徳」「体」の連携方策を検討し、「総合型プログラム」を作成する体制を検討します。

担当課・係	生涯学習課 推進係
-------	-----------

方 向 性	・市民の生涯学習、生涯スポーツ、文化芸術の学習や活動の成果を人づくり・地域づくりに活かす仕組みを構築する。
-------	---

基本目標の取組概要	・市民アカデミーや出前講座を通じて、生涯学習ボランティアなどの人材育成に努める。
平成31年度の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習ガイドを300部発行するとともに、市ホームページに掲載した。年度途中で講師情報の追加があった場合は、ホームページを随時更新した。また、講師、指導者、講座情報の募集を広報及びホームページに掲載した。 ・市民活動に導くよう編成したプログラムで市民アカデミーを実施した。また、卒業生を対象とした地域活動過程を引き続き実施した。

●教育振興基本計画上の数値目標

指 標 名	現況値 (平成28年度)	目 標 値 (平成33年度)	実 績 (平成31年度)	説 明
市民アカデミー参加人数(人)	55	60	60	令和元年度の実績として2年生29名、2年生24名、地域活動過程7名であった。

●目標の達成度

●市民アカデミーを卒業した方々が市民活動やボランティア活動を始める等、事業の成果が表れてきている。

リーディング施策(生涯学習課文化係)

≪平成31年度 主な取り組み≫

- * 学校教育において必要な活動を学校と地域・家庭が連携・協力する仕組みを構築し、活動を開始します。
- * 市民アカデミーや出前講座を通じて、地域づくりの担い手や生涯学習ボランティアの育成に努め、生涯学習ガイドを充実させます。
- * 子どもの頃から文化芸術に親しむ機会を増やすことや地域に根ざした文化芸術活動を充実させ、学校教育や生涯学習と連携しながら、「知」「徳」のライフステージに合わせた学びを充実させます。
- * 大学などと連携して、「知」「徳」「体」の連携方策を検討し、「総合型プログラム」を作成する体制を検討します。

担当課・係	生涯学習課 文化係
-------	-----------

方 向 性	生涯学習、文化芸術の活動を支援し、各分野の交流を進める。
-------	------------------------------

基本目標の取組概要	市内の文化芸術団体と連携して体験会を開催し、様々な世代が文化や芸術に触れることのできる機会を提供する。
平成31年度の 実施内容	●市民文化祭において、押し花、大正琴、茶道、印西音頭、カリンバ作り、いんざい君おめん作りなどの体験会を実施する。

●教育振興基本計画上の数値目標

指 標 名	現況値 (平成28年度)	目 標 値 (平成33年度)	実 績 (平成31年度)	説 明
市民文化祭体験会参加者	595	1200	1184	令和元年度実績として、茶道175人、押花30人、大正琴100人、鉄道模型運転600人、その他参加者279人の計1,184人の参加者（主催者を含む）があった。

●目標の達成度

- 今年度の目標を達成することができた。今後は、令和3年度の目標値に達するよう内容を充実させていく。

4 評価のまとめ

(1) 評価内訳

基本目標における主な取り組み毎の評価内訳は、以下のとおり。

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

1 学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進

番号	主な取り組み	評価
(1)	学ぶ力を育む教育の充実	A
(2)	豊かな心を育む教育の充実	A
(3)	健やかな体を育む教育の充実	A
(4)	学校給食の充実	A

2 安全で安心できる教育環境づくり

(1)	教育環境整備の充実	A
(2)	学校の適正規模・適正配置の推進	A
(3)	学校安全の推進	A
(4)	開かれた学校づくり	A
(5)	情報化社会に対応した教育の推進	A

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する 〔生涯学習・生涯スポーツ〕

1 年齢にとらわれずにいきいきと暮らすための生涯学習活動

(1)	生涯学習情報の充実	A
(2)	多様な学習機会の提供	A
(3)	生涯学習施設の整備・充実	A
(4)	高等教育機関等との連携協力	A

2 地域で子どもたちを守り育てる環境づくり

(1)	青少年の健全育成活動の推進	A
(2)	家庭教育の推進	A

Ⅲ. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化芸術〕

1 創造性を育む文化芸術活動の推進・継承

(1)	文化・芸術に触れる機会の拡大	A
(2)	市民の自主的な活動の支援	A
(3)	子どもをはじめとする次世代の育成	A

2 文化財の保護・活用

(1)	文化財の保護	A
(2)	文化財の活用	A

3 市史編さん事業の推進

(1)	市史編さん事業の推進	A
(2)	地域史料の保存と活用	A

※ 評価基準

S…事業の目標が達成され、計画以上の施策の進捗が認められる。

A…事業の目標が概ね達成され、施策の進捗が認められる。

B…目標が一部達成できなかった。

C…未達成事業が多く、施策の進捗がほとんど認められない。

各事業の事業内容（平成31年度目標）に対し、進捗、達成度を総合的に判断し、S～Cの4段階の基準において自己評価しました。

今後の方向性としては、PDCAサイクルの一連の検証をもとに事業を進めることが重要であり、印西市教育委員会の機能充実と活性化を図っていきたいと考えております。

(2) 施策別評価

主な施策における主な取り組みの評価内訳数は以下のとおり

番号	基本目標	主 な 施策数	主 な 取り組み数	主な取り組みの評価数			
				S	A	B	C
I	生きる力を持ち未来を拓く 子どもを育む 〔学校教育〕	2	9	0	9	0	0
II	生涯を通して学びスポーツ に親しめる環境づくりを推 進する 〔生涯学習・生涯スポーツ〕	2	6	0	6	0	0
III	心に豊かさをもたらす文化 の保護と振興を図る 〔文化芸術〕	3	7	0	7	0	0
計		7	22	0	22	0	0

(3) 学識経験者の知見の活用

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第2項には、事務事業の点検及び評価を実施するに当たっては、教育に関し学識経験を有する方の知見の活用を図ることが定められております。

このため、印西市教育委員会では事務事業が適切に実施されているか、点検評価委員2名から書面で意見をいただいております。

※敬称略

分 野	氏 名	役 職
学 校 教 育 分 野	井 上 愛一郎	聖徳大学教授
生 涯 学 習 分 野	板 倉 脩	元社会教育指導員 元家庭教育指導員

《学校教育分野》

平成31年度の実績については、どの事業においても「政策評価」「評価理由」「今後の課題」が的確に記載されています。また、事業評価についても実施した全ての事業がA評価と優れた成果を出していると思います。

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む

1 学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進

(1) 学ぶ力を育む教育の充実

- ① 児童生徒の学力及び教職員の指導力の向上を目指し、各種研修会の実施や指導主事等の派遣、教育課題等の調査・研究とその活用、学習指導員・介助員の配置や学生ボランティアの活用など、様々な取組が実施され成果をあげていることがうかがえます。評価指標の一つである全国学力・学習状況調査や千葉県標準学力テストの結果を分析し、授業改善や教職員の指導力向上に活かすことにより、児童生徒一人一人の学力がさらに向上することを期待します。
- ② 印西市独自の取組である漢字級別認定テストや計算力認定テスト、社会科ワークテストは、昨年度よりも多くの児童が受験しており、テストが認知され定着していることを感じます。この取組を通して児童の基礎学力や学習意欲が向上することを期待します。
- ③ 小中学校に配置しているALTは、児童生徒のコミュニケーション能力の向上に寄与するところが大きいものと考えます。また、小学校に配置している日本人英語教育コーディネーターは、英語活動を実施する上で有益であると考えます。ボーダーレス化する社会では、英語がコミュニケーションの必須のツールであることから、教職員の指導力の向上に加えて、ALTや日本人英語教育コーディネーターの配置を充実させてほしいと思います。なお、中学生海外派遣研修や小学生対象のイングリッシュ・トレセンについては、英語学習へのモチベーションを高めることから、今後も継続してほしい事業と考えます。
- ④ 学習指導員や介助員については、児童生徒一人一人の教育的ニーズにきめ細かく対応するために、その存在は極めて大きいものがあると思います。また、89名という人的配置は、各学校が教育活動を進める上で大きな助けにもなっていると思います。障害を持つ児童生徒は今後も増えることが予想されることから、継続してその配置をお願いしたいと思います。
- ⑤ 幼稚園に配置している補助教員や支援員は、幼児一人一人にきめ細かく対応した教育を実施する上で必要な人材であると考えます。幼児にとって安全で安心できる園生活を保障するためにも、継続的な配置をお願いしたいと思います。

(2) 豊かな心を育む教育の充実

- ① 児童生徒の豊かな心を育むため、学校単独では実施の難しい芸術文化体験事業や各種体験活動に取り組んでいることが評価できます。児童生徒にとって貴重な体験の場になっているものと思います。今後も道德教育や人権教育の充実を図り、多様性を認める人間関係の構築や全ての児童生徒が安心できる学校づくりに努める

ことを期待します。なお、道徳の教科化については、教育委員会の適切な指導や情報提供を含め引き続き各学校への支援をお願いします。

- ② 不登校など様々な課題を抱える児童生徒に対応するため、居場所としての適応指導教室や電話・面接相談が有効に機能していることがわかります。31名（昨年比＋5名）の児童生徒に改善が見られたことは、その表れであると考えます。今後も保護者や学校、関係機関との連携を密に、当該児童生徒のサポートをお願いしたいと思います。

（３）健やかな体を育む教育の充実

- ① 小学校駅伝競走大会は、児童にとって励みや目標になっていると思います。何よりも当該大会に向けて学校全体で取り組んでおり、選手だけでなく全ての児童の体力の向上に寄与しているものと考えます。
- ② 中学校における部活動サポーターの派遣については、専門家から指導を受けることができることに加えて、教員の働き方改革の観点からも、有益であると考えます。また、部活動補助金による経済的な支援も、保護者負担の軽減につながる事業であり、今後も継続をお願いしたいと思います。
- ③ 学校保健事業や学校環境衛生事業については、医師会や薬剤師会などと連携して計画的に実施され、児童生徒の健康維持や改善に大きく寄与しているものと思います。健康診断の結果については、通院を促し治癒率を上げるなど、事後の対応を確実にお願いしたいと思います。

（４）学校給食の充実

- ① 食に関する指導は、「食育ミニマム」や全体計画に基づき栄養教諭や養護教諭と連携を図りながら、計画的・組織的に行われていることがうかがえます。また、食育を効果的なものにするため、「食育つうしん」を発行し、家庭の啓発を図る工夫もされています。
- ② 安全・安心で安定的な給食の提供には、給食センターの整備が重要です。児童生徒の急増が予想されることから、早急に計画を練り直す必要があると考えます。

２ 安全で安心できる教育環境づくり

（１）教育環境整備の充実

- ① 校舎の増築や大規模改修工事、トイレの洋式化、備品の整備等、計画的に事業が実施されています。情報化社会の進展に対応するため、ICT機器及びその環境の整備・充実をお願いしたいと思います。
- ② 就学援助についても適切に実施され、児童生徒の大きな助けになっていると思います。今後も周知や申請の方法を見直し、必要な家庭がもれなく活用できるようお願いします。

（２）学校の適正規模・適正配置の推進

- ① 印西市学校適正規模・適正配置基本方針に基づき、船穂小学校及び本埜中学校の適

正規模・適正配置に取り組んでいることがうかがえます。何よりも教育の主体である児童生徒のために、「より良い教育環境を整備し、より豊かな成長を保障する」観点から、保護者や住民と課題を共有しながら粘り強く取り組んでほしいと思います。

(3) 学校安全の推進

- ① 避難訓練や防犯教室、交通安全教室など、安全教育の充実に努めるとともに、学校や通学路の安全点検、防犯ブザーやヘルメットの貸与など、児童生徒の安全を確保するための取組が着実に実施されています。
- ② 学校安全で大切な視点の一つは、児童生徒一人一人が「自分の安全は自分で守る」という自衛意識を持つことであると考えます。各事業の実施にあたっては、このような視点も踏まえて児童生徒への指導をお願いしたいと思います。

(4) 開かれた学校づくり

- ① 各学校がホームページを活用して、積極的に学校情報を発信していることがうかがえます。アクセス数も全校で年間約410万件あり、昨年より30万件増えていることから、ホームページによる情報発信はますます重要度を増すものと思われます。保護者や地域の期待に応え、タイムリーで有益な情報発信ができるよう、各学校への支援をお願いしたいと思います。

(5) 情報化社会に対応した教育の推進

- ① 校務システムの運用、各種文書の電子化、指導案のデータベース化など、情報化について印西市は最先端の環境と運用がされていると思います。
- ② 教職員の働き方改革も踏まえ、校務システムを積極的に活用した思い切った改革を期待します。

《生涯学習分野》

どの項目についても平成31年度の実績についての的確な「施策評価」「評価理由」「今後の課題」が記されていると思います。

報告書に書かれている13項目全てにおいて、施策評価「A」と優れた結果を出されていることは素晴らしい実績であると思います。

Ⅱ. 生涯を通して学び、スポーツに親しめる環境づくりを推進する

1 年齢にとらわれずにいきいきと暮らすための生涯学習活動

(1) 生涯学習情報の充実

- ① 生涯学習ガイドの発行

発行部数300は現段階では適当な数と考えます。今年度発行の「生涯学習ガイド」も市民の要望に応え、幅広い情報を基に丁寧に作成されており、どの年代の

人にとっても読みやすく利用しやすいと思われます。更に多くの市民が手にすることができるよう、集会や会議等での啓発活動を試みることや、市民の多くが利用する様々な施設への配布を進めて頂きたいと思います。市のHPへの掲載は良い取り組みと考えます。

(2) 多様な学習機会の提供

① 市民アカデミーの充実

31年度の実績に書かれてあるように「1年生」「2年生」「地域活動過程」のどれもが充実した研修内容であると思います。市民アカデミー終了後、県主催の講座で研修を深めている人もいます。市職員から市政策活動の実態と課題について学ぶ事は、市政を身近に感じ、市政に興味を持つためには必要な講座と思います。大学の教授から歴史や健康等について専門的な事を学ぶこと、地域で活躍する市民の話聞いて学ぶこと、また印西市を出て様々なことを学ぶことはアカデミー講座の魅力ある講座の一つです。印西市の自然や歴史を広く深く学ぶ機会を増やししながら、今後も続けていくことを強く希望します。

市には市民活動団体が多く存在します。アカデミーとして交流を増やしていくことで更に楽しい学習も可能になるのではないのでしょうか。

「市民が望む講座」「応募方法」「卒業生の活躍の場の確保」等々、今後も考えていかなければならない事もあります。更なる充実を望みます。

② 公民館・地域交流館主催事業の充実

それぞれの館が工夫して事業を進めていることがわかります。参加人数は昨年度からみると減少傾向にあります。整理収納関連講座が2講座減の1講座、287人の参加が10人の参加となったのは、新型コロナウイルスの影響でしょうか。市民に必要だと考えて企画し、実施した事業であっても集客が定員に満たないこともあるかと思います。地域住民のニーズを得るためのアンケートや他市町の情報を得ることは今後とも必要なことと思います、集客数を見ながら講座の変更や定員数の調整は考えていくべきだと思います。

「印西市新発見バスツアー」は市民の要望に応えた良い企画です。今後も「行ってみたい公民館・地域交流館」「行ってよかった公民館・地域交流館」を心がけ、地域密着の場所となり続けることを望みます。

③ 図書館サービスの充実

延べ25万人近くの利用者がいることや78万の資料貸し出しを行っていることは図書資料の充実と職員の努力の結果と思います。

レファレンスの受付数が2万件以上ある事は、図書・視聴覚資料と図書館のソフト面の充実を物語っていると言えます。新刊本、DVD等について今後ますます増えてくる市民の要望にこたえられる図書館を期待します。

④ 生涯学習まちづくり出前講座の充実

講座数が80件以上あることは市民から評価を受けているということです。事業の目標を解決するためには大変に素晴らしい取り組みと考えます。今後も、事業の認知度の高まりとともに利用が伸びていくと考えられます。また、より専門的な知識を得たいと考える市民も増えてきます。異動のある職場であり、忙しい中、研究・調査をして講座の講師として出向くことは大変なことと思いますが、継続と充実を願っています。

(3) 生涯学習施設の整備・充実

① 生涯学習施設の整備・充実

計画的に改修がなされています。「文化ホール・大森図書館」の大規模改修工事は順調に進んでいるようで、市民皆が完成と、新しい企画、新しい事業等を楽しみにしています。今後も安全面、使いやすさを考え継続的・計画的に公民館、地域交流館、図書館の改修を進めていかなければならないと思います。

館の計画的な改修については「改修」「廃止」「新築」「合併新築」「他施設への移転」等考えることも必要になってくるのではないのでしょうか。安全面については早急に対応していかなければならないと思います。

管理運営や推進体制等については、市民の声も参考にはいかがでしょうか。

(4) 高等教育機関等の連携協力

① 産学官民の連携・協力

今後、更に専門的分野の知識を得たい、活動をしたいという市民の声が増えてくると思います。全てに対応することはできませんが、今後も大学や企業の協力を求めていかなければならないと思います。

順天堂大学公開講座に「パラスポーツ教室」を加えたことはユニバーサルマナーの面からも継続していききたい講座です。

かつて、パラリンピック大会で決勝までいった100mの選手を大森小学校に呼んだことがあります。全校児童に事故で失った足のことや、それでもサッカーの選手として頑張ったこと等を話して頂きました。子どもたちは真剣に聞いていました。講演の後、グラウンドで子どもたちとサッカーもして頂きました。

学校教育の領域ですが、「パラスポーツ教室」を学校に出前することも一考だと思います。

② 社会教育関係団体の支援

積極的に活動している社会教育団体の支援は今後も必要です。

アカデミーのプログラムを市民活動へ導く為に編成したとありますが、大変に素晴らしい取り組みと考えます。2年間の学習後に取り組みやすい活動があるということは市民にとって参加がしやすいものとなります。すぐに良い結果を求めるのではなく、今後も内容を検討しながら進めていくことが大切なことと思います。

2 地域で子どもたちを守り育てる環境づくり

(1) 青少年の健全育成活動の推進

① 「こども110番の家」の推進

「こども110番の家」のステッカーは多く目にすることができます。設置する家が増えることで、その地域は犯罪防止に積極的であることを示すことができるので、引き続き設置の協力を求めていくことは必要と考えます。破損していたり、汚れたりしているステッカーも目にしますので交換も必要です。印西市の子どもの事故・事件が少ないのは、取り組みの効果の現れだと思えます。また、不測の事態に備え保険に加入することは必要な取り組みです。

② 青少年健全育成大会の実施

企画運営には様々な機関からの要望もあり大変なことと思えます。

事業の継続は「青少年の健全育成」のためには大切と考えます。今後も魅力ある大会となるようお願いいたします。舞台発表は目立たなくとも楽しんで活動している団体の発表でも良いのではないのでしょうか。

③ 地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実

地域のコミュニティづくりの1つの方法としては有効な事業と考えます。実施中学校区の拡大を図り情報の共有とともに、地域に住む多くの方々から意見を聞き、「ねらい」「必要な事業」等についても話し合いをもたれてはいかがでしょうか。

④ 放課後子ども教室の実施

市内小学校2校で実施していますが、子どもの要望を受けての活動や指導者の確保等、大変な事も多いと思えますが、今後も子どもたちが意欲的に参加できるような企画を考えて実施して頂きたいと思えます。

⑤ 成人記念式典の実施

成人者に自覚を持ってもらうためにも運営委員会方式はよい取り組みであると思えます。

学業や仕事で忙しいとは思いますが、当日の無事故、安心して出席できるように企画運営を考えて欲しいです。内容については現状のまま実施することと、時代に合った内容を考え実施することが大切であると思えます。多くの方々の協力を必要とする式典です。無事故で参加者の思い出に残る成人式になることを祈っています。

⑥ 子ども読書活動の推進

図書館での読み聞かせに参加する人数の多さから、子どもの本への関心度の高さが窺えます。学校での読み聞かせにも同様の事が言えます。小学校で実施している保護者のかたの読み聞かせは素晴らしい取り組みと考えます。

図書館での読み聞かせは、子どもたちを本好きの子に育てることや、子どもたちが図書館を身近に感じるようになる良い企画と思えます。

夏のお話し会の参加者が昨年よりも100名以上増えています。担当の方の努力の結果と思います。

(2) 家庭教育の推進

① 家庭教育学級の充実

時代を超えて重要な事業です。経験の中で、時には参加者が思うように集まらない時もありましたが、お互いの体験談を話し合う等「座談会形式」にした事で充実した時間を過ごした事もありました。

学級数は若干減少しましたが、参加者は400名以上増加しています。各学校の家庭教育学級の取り組みが充実してきたからと考えます。

今後は、男性や高齢者等多くの人に参加できるような日時を考えていくことも必要になってくると考えられます。

Ⅲ. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る

1 創造性を育む文化芸術活動の推進・継承

(1) 文化芸術に触れる機会の拡大

① 文化芸術事業の充実

予定通りの事業を全て実施し、平均売上率が目標に達したことは取り組みの評価に値すると思います。売り上率だけを考えるのであれば、集客の見込める事業だけを実施すれば良いが、それでは幅広い分野の文化・芸術事業の鑑賞機会の提供にはなりません。

日本の様々な文化・芸術に触れる機会を市民に与える事が文化ホールの存在価値であると思います。多くの方の意見や要望を聞き、引き続き事業広報の手段や方法について拡充・検討を行ってください。

(2) 市民の自主的な活動の支援

① 文化芸術活動の支援

市民文化祭への来場者が減少しました。興味関心、会場までの足、駐車場の問題等様々な理由があると思います。増やす必要があるのですしたら今後の課題となります。

会場数を増やしたり新規事業を開催したりすることも来場者を増やす方法の一つにはなりますが、毎回という事は難しい事と考えられます。

今後も活動への支援は必要です。

② 地域文化活動の支援

市民の地域文化活動にはどのような活動があるのか、市はどのような支援をしているのかを多くの市民に向けて啓発活動を増やすことで、文化活動に目を向ける市民も増えてくるのではないのでしょうか。

今ある文化活動の支援同様、過去の文化活動にも目を向けてみては如何でしょうか。

(3) 子どもをはじめとする次世代の育成

① 子どもたちの文化芸術活動の充実

「子どもが参加しやすい事業の実施」「魅力的なコンテンツを継続して開発」とありますが、この2点が次世代の育成には欠かせないことと思います。より多くの子どもたちの参加を求めるのであれば、届きにくい子どもからの声を聞き、子ども目線で事業内容を考える必要があると思います。保護者の理解協力も必要となりますので、保護者向けの案内等も考えてみてはどうでしょうか。

② 芸術文化活動を支える人材育成の推進

地域の文化・芸術を後生へ伝えて行くには人材の育成が必要です。人材を広く求めていくことや、人材をボランティアだけに頼らない方法を考えることも必要ではないでしょうか。

2 文化財の保護・活用

(1) 文化財の保護

① 指定文化財保護事業

印西市には多くの文化財があります。開発が進む中で調査・保護していくことは大変な事ですが、年に1～2度の環境保全調査は必要と思われます。

文化財愛護思想の普及や防災意識の向上については、青年層への啓発も考えていただきたいと思います。

② 文化財基礎調査事業

後世に仏像や石造物の形を変えず残すことは大切なことです。作られた当時の人の思いや願いを知る上でも貴重な歴史資料と思います。

引き続き丁寧な調査をお願いします。

③ 埋蔵文化財の保護事業

道作古墳はよく整備されています。調査結果については多くの市民に伝わるよう、考えていただきたいと思います。

史跡等の整備管理については難しい面も多くあると思いますが、十分な取り組みを望んでいます。指定文化財保護事業同様をお願いします。

(2) 文化財の活用

① 文化財の活用事業

活用できる文化財は活用してこそ価値があると思います。

古墳や古文書、昔の地図等を歴史教育で体験使用できることや、様々な物を様々な場面で活用できることを紹介することも大切なことと考えます。

道作古墳の発掘成果の周知は今後も続けて欲しい事業です。

② 印旛歴史民俗資料館運営事業

印旛歴史民俗資料館にある昔の民具等を実際に使用することで、保護する事の大切さを学ぶのではないかと思います。

常設展示の見学者が増えています。後世に伝えたい多くの素晴らしい資料がありますので、今後も展示の更新や見学者しやすい環境、興味をもって体験出来るコーナー等の設置等を考えて欲しいと思います。

③ 郷土資料の収集・保存・展示

分散化した歴史的資料の集約化は保存管理のためには必要なことです。継続的な取り組みを望みます。

④ 観光事業等の連携による文化財の活用

地域の文化財への理解の推進には「木下街道膝栗毛」や「道作古墳見学会」等が良い取り組みと考えます。印西市には、歩いて巡る歴史探訪等のコースが多くありますので観光事業との連携も考えられます。

3 市史編さん事業の推進

(1) 市史編さん事業の推進

① 市史編さん事業

「市史編さん事業」について今回は施策評価が「A」となっています。企画から実施まで丁寧に行われた結果と思われます。事業内容や実績からみて地道に事業を推進していると思います。

(2) 地域史料の保存と活用

① 地域史料の保存及び活用

古文書等の調査、収集、整理、保存については、史料の活用に向けて細かな仕事で苦勞は多いと思いますが、継続して行って頂きたいと思います

② 公文書の収集、整理保管

事業の全てが概ね計画通りに実施されていることは素晴らしいことと思います。歴史公文書の保管総数が41,595点についても、大変な作業であると思いますが、引き続き整理保管を確実に行って頂くことを望みます。

リーディング施策

生涯学習課推進係、文化係共に正しい方向性に向けて、しつかりと実施されていると思われます。

市民アカデミーの講座を通して、人材を育成したり、市民活動に導くようにプログラムを編成したりすることは素晴らしい取り組みと思います。

市民文化祭において様々な体験する機会を設けることは生涯学習に進む良いきっかけとなります。今後も幅広いメニューの紹介を続けていくことを望みます。